

弊社のご紹介

株式会社 経営システム研究所

弊社概要

■ 株式会社 経営システム研究所は、製造業に特化して「業務改革とシステム構築」のコンサルティングを実施する会社です。

会社概要

社名 株式会社 経営システム研究所
設立 1989年(平成元年)3月
代表者 代表取締役社長 富田 慶子
所在地 〒533-0033 大阪市東淀川区東中島1丁目19-4
ルーシッドスクエア新大阪 12F
TEL:06-6320-1858 FAX:06-6320-1859

従業員 15名
資本金 2,500万円
主要取引先業種 製造業、システム・インテグレータ
事業内容 製造業向け各種コンサルティング



専門分野

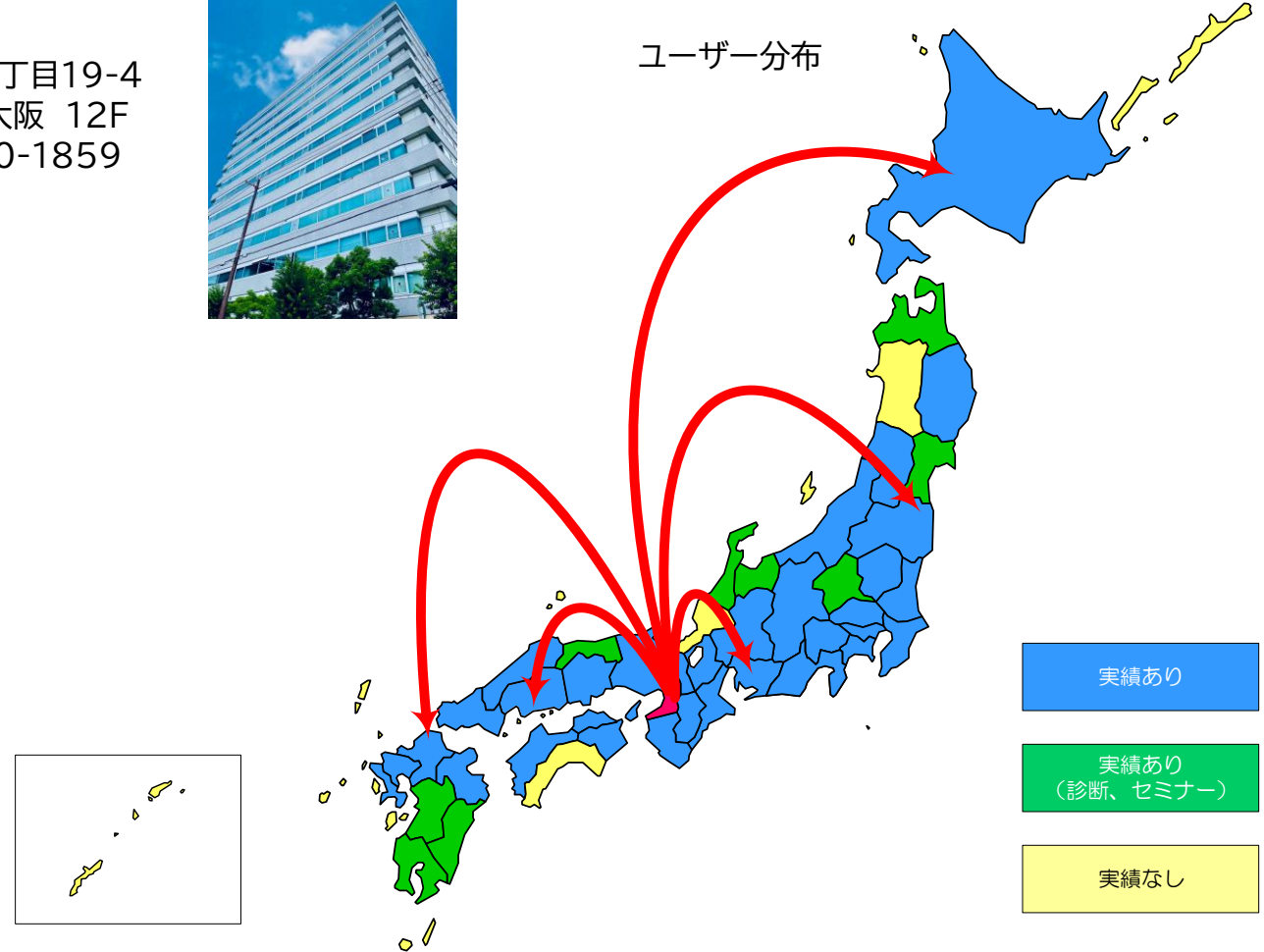
経営戦略立案、事業戦略立案
企業文化変革、人材活性化
業務プロセス改革

- ・製番設計、標準設計
- ・生産管理
- ・製造現場、品質管理
- ・開発設計
- ・原価管理／原価低減

情報戦略

- ・システム企画支援
- ・システム基本構想策定支援
- ・システム構築支援

ユーザー分布



弊社の特長

■ 株式会社 経営システム研究所の特長です。

①創業以来、製造業様がメインのお客様です。

指導・診断企業数は1,000社を越えました。実績の半分は上場企業様です。

②経営方針から展開したビジネスモデルの策定とそれを 業務レベルまでブレイクダウンした改革・改善が得意です。

全体最適化を前提条件として、現場・現物・現実密着型で、ビジネスモデルと業務の変革を行っています。

③製造業実務に精通しています。

“絵に描いたモチ”で終わらせない為に、具体的な実現手段の策定から完遂までお手伝いしています。

④投資対効果の出る改革が得意です。

経営上の効果を生み出すために、新しい業務のしくみとシステムを構築します。

⑤多くの営業・製造・設計等のシステムについての知識を持っています。

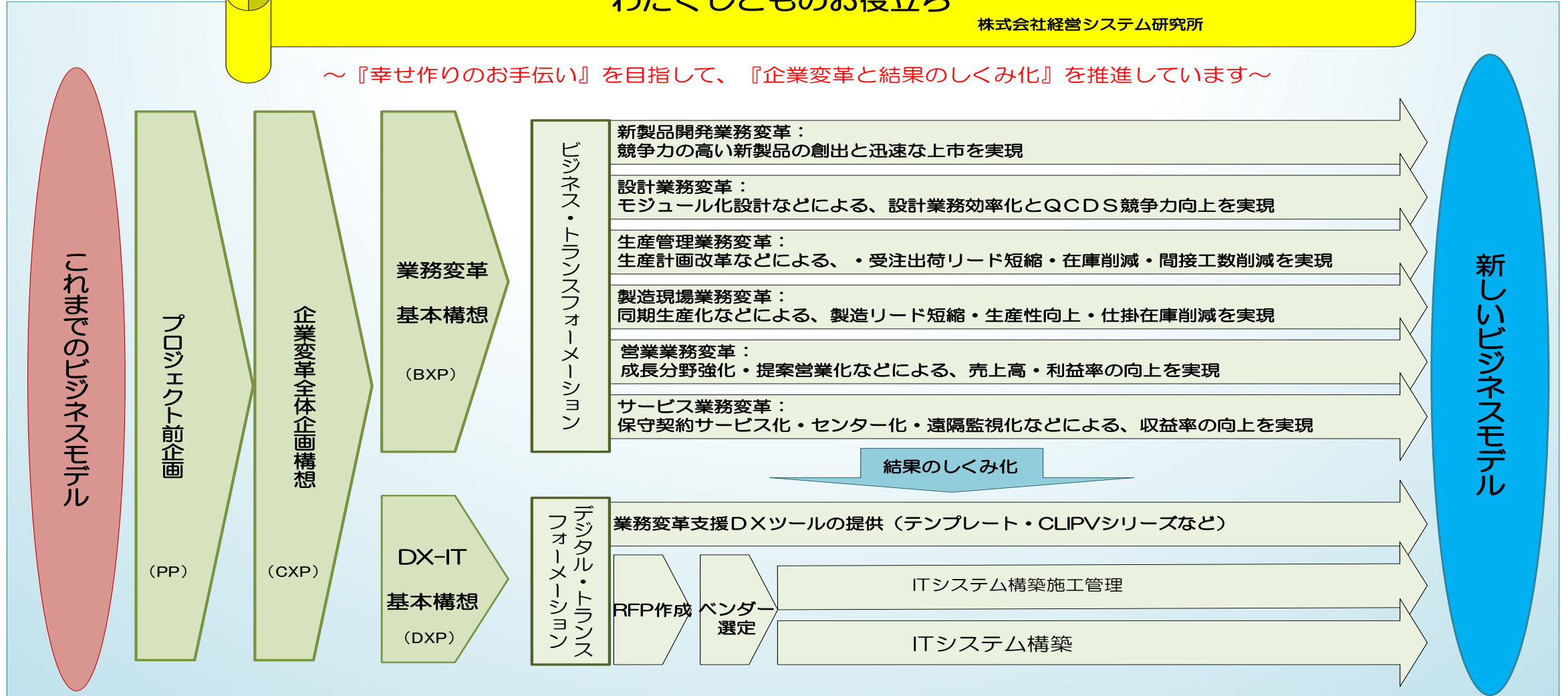
ITシステムは「業務を支援・定着化させるためのツール」として捉え、「業務改革」と「ITシステムの構築」を両輪として、同期を取りながら回していきます。

わたくしどものお役立ち

わたくしどものお役立ち

株式会社経営システム研究所

～『幸せ作りのお手伝い』を目指して、『企業変革と結果のしくみ化』を推進しています～



※ PP:Project Pre Planning CXP:Corporate Transformation Planning BXP:Business Transformation Planning DXP:Digital Transformation Planning

情報システム構築の5レベル

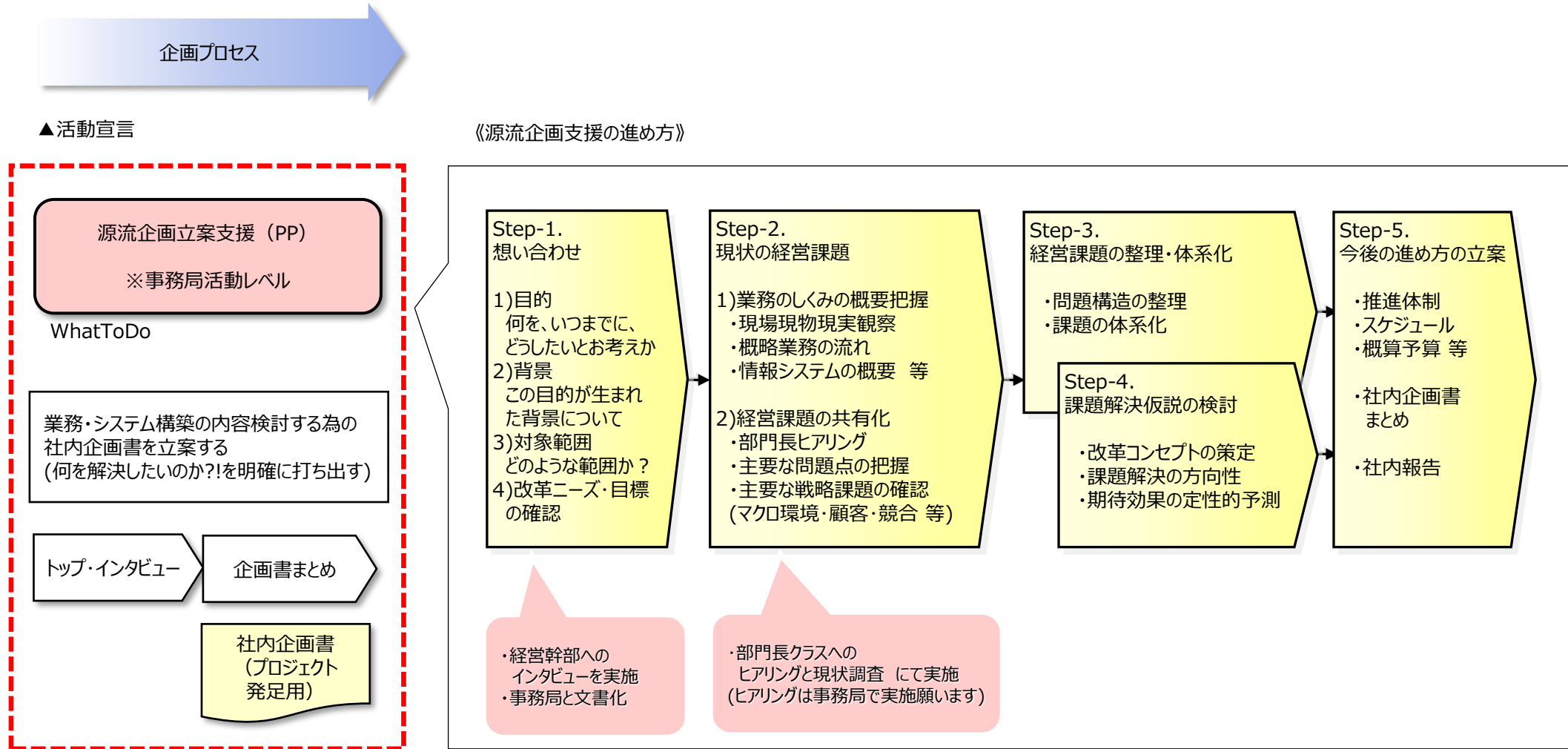
情報システムを構築する場合の、5つの構築レベルを整理してみました。

情報システム構築を目的とするLEVEL 1. と、企業の存続発展を目指すLEVEL 5. では、その投資VS効果面で、雲泥の開きが生じます。これから情報システム構築を行う予定の企業は、自らがどのレベルで情報システム構築を行うのかを、最初に決めることが肝要です。情報投資の成果を決めるのは、この部分についての方針設定である事を忘れないようにして下さい。

LEVEL	LEVEL名称 目的	LEVEL内容説明	Project Leader	投資効果		ご経営者の想い
				投資	効果	実施の背景
LEVEL 5	企業変革実現型 目的：企業存続発展	企業存続発展のために、ご経営者のビジョンや戦略目標の実現を目的として、全社的な組織×制度×仕組み×企業文化の変革を実施+情報システム化	ご経営者	HH	◎◎	社運を賭ける！企業文化を変える！
						経営環境変化への迅速な適応や、企業文化起因の恒常的問題体質からの脱却時に実施。
LEVEL 4	業務改革先行型 目的：目標効果実現	製販技等の機能毎に、目標値と解決手段概要を定めて、当該機能の具体的成功映像を設定、現状とのギャップ埋め方法立案、各種業務改革実施+情報システム化	本部長・ 工場長	H or M	◎	命がけでやれ！競争力向上！PowerShift!
						リードタイム1/3！コスト1/2！設計人員2/3！等々の高いテーマを掲げ、それを実現する時に実施。
LEVEL 3	業務改善先行型 目的：実務円滑化	情報システムの新規開発や再構築時に、業務のムダや阻害要因を抽出し、真因分析等を用いて分析、業務改善実施+情報システム化する	部課長	H or M	○	衆知を集めて徹底的にムダを取れ！！
						企業体質を強化したい！改善マインドを持った人材を養成したい！情報システムの投資VS効果を少しでも高めたい。
LEVEL 2	単純新規開発型 目的：情報システム	これまでは情報システム化できていなかった業務分野を、コードや区分記号等の標準化を実施+手作業を情報システム化	課長 ~担当 + 情報シス	?	?	業務のインフラ整備！先ず幹を作れ！
						情報インフラを整備したい。間接人件費を低減したい。事務作業の品質やスピードを高めたい。お客様とシステム関係したい。
LEVEL 1	単純平行置換型 目的：システム再構築	OS・ソフト・ハード等の陳腐化を引き金として、現状の情報システム自体の不具合点を改良して、ほぼ今と同じ機能の情報システムを再構築する	情報シス	H	×	やるんだったら仕方が無い！安く！
						OS・ソフト・ハードの陳腐化で情報システム再構築必至。SEの退職で誰も分かる者がいなくなる→Package導入再構築。

源流企画立案支援(社内企画作り)の進め方

■ 源流企画（事務局レベルでの業務改革・情報化構想立案）支援について、以下の進め方にてご提案します。



基本構想立案支援メニュー

- 基本構想策定の源流となる企画書作成をご支援し、投資対効果の必要性を明確化するのが「源流企画立案支援」です。
- 社内的にグランド・デザインからスタートできる場合は、特に実施の必要はありません。

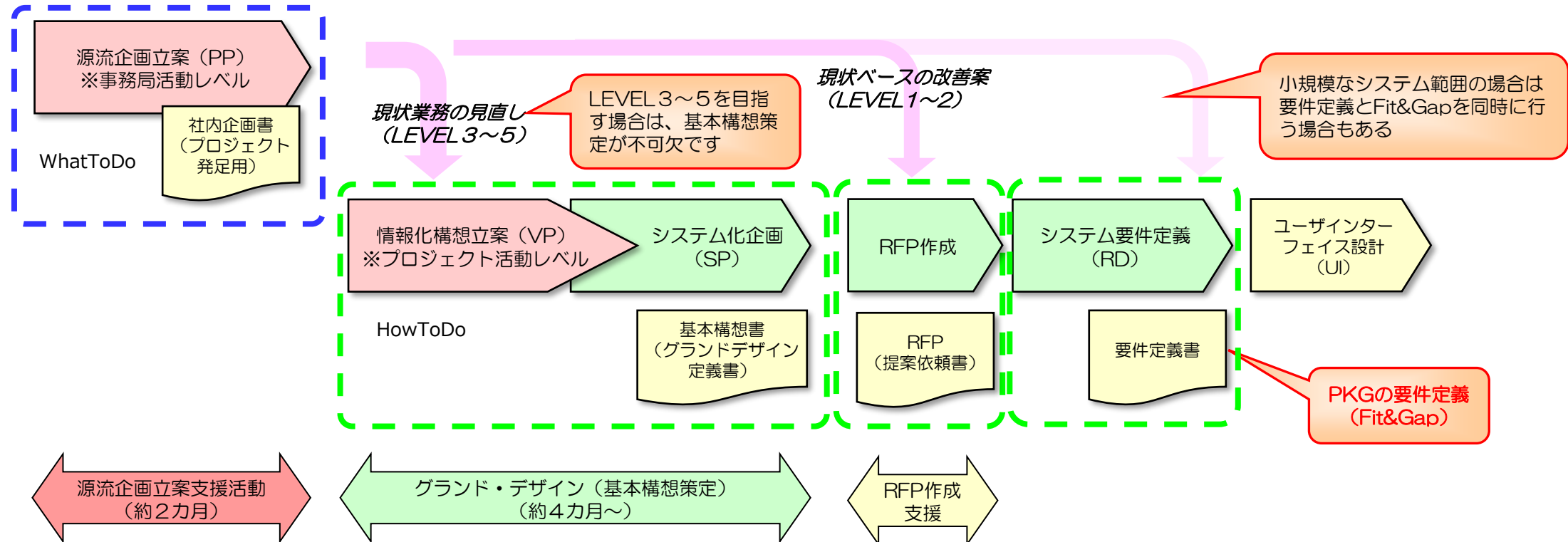


▲活動宣言

▲基本構想プロジェクト キックオフ

▲ベンダー選定（概算見積）

▲詳細見積



基本構想策定の進め方

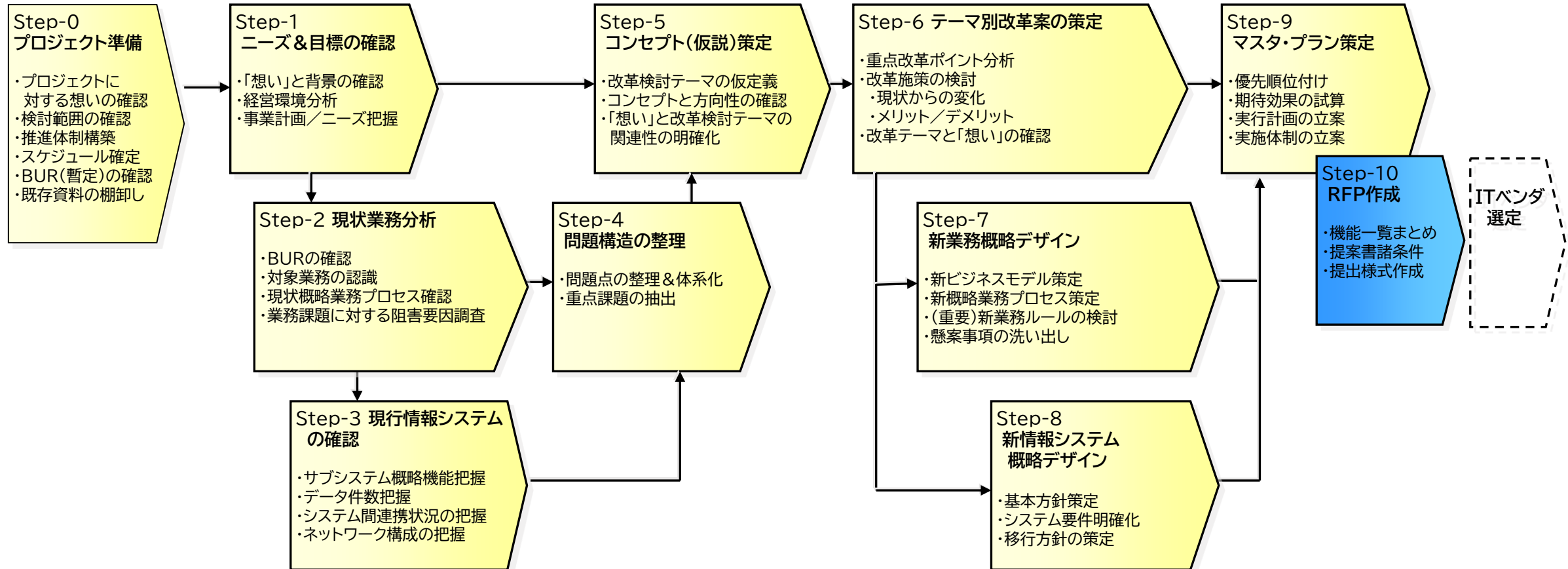
■ 基本構想策定支援は、以下のステップでの進めることが標準です。

	【準備期間】	ステージⅠ. 基本方針策定 【現状業務&システムの問題の明確化&解決の方向性検討】	ステージⅡ. 業務・ITシステムコンセプト策定 【業務&システム課題の明確化と実現方法の策定】
期間	0.5ヶ月	3ヶ月間	3ヶ月間
	0カ月目	1カ月目	2カ月目
			3カ月目
			4カ月目

▲キックオフ

▲中間報告

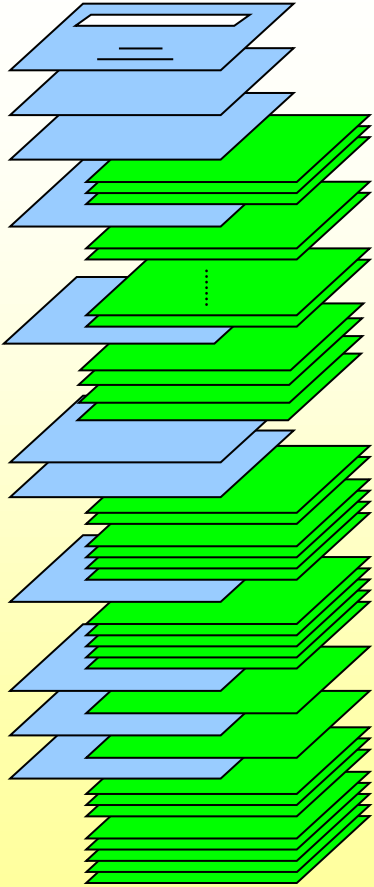
▲報告会▲



活動内容

基本構想書のイメージ（標準スタイル）

- 基本構想書の標準的な目次を下記に示します。
- 実際の構成に関しては、各プロジェクト毎に必要な資料を決定します。



1. プロジェクトの目的・背景

- (1) 目的、狙い
- (2) 想いのまとめ
 - ・ 経営者インタビューまとめ
- (3) 経営分析
 - ・ 同業他社動向
 - ・ SWOT分析

2. 現状業務分析

- (1) 業務フロー
- (2) タイム・チャート
- (3) 問題点カード分析
- (4) 検討テーマに対する主要課題まとめ
- (5) 主要課題-原因体系図

3. 現状システム分析

- (1) システム関連図
- (2) システム機能
- (3) システム・インフラ
- (4) 検討テーマに対するシステム課題まとめ

4. 改革の方向性

- (1) 主要課題まとめ
- (2) 主要原因と改革テーマの関連
- (3) 現状と目指すべき姿
- (4) 改革テーマ全体像

5. 改革テーマ

- (1) 改革テーマ体系図
- (2) 改革テーマ全体像
- (3) 改革テーマと業務機能の関連
- (4) 改革テーマ別
 - ・ 基本的考え方
 - ・ 狙いと効果
 - ・ 対策のキーポイント
 - ・ 懸案事項
 - ・ 改革イメージ

6. 新業務イメージ

- (1) 新業務機能と役割
- (2) 新業務プロセス・フロー
- (3) 現状との変化（改革ポイント）
- (4) 効果

7. 新情報システム・イメージ

- (1) 情報化基本方針
- (2) システム開発方針
- (3) 新情報システム体系図
- (4) システム機能

8. 実行計画

- (1) 期待効果試算
- (2) システム投資規模概算
- (3) 推進計画
- (4) 推進体制

【個別受注型製造業が抱える課題】

高負荷 工数不足

都度図作成、仕様変更で出図遅れが多発
⇒ 流用元製番の選択ミスで手間がかかる
⇒ 特殊対応の影響範囲検証、仕様変更で手間がかかる

営業が単独 で見積でき ない

仕様打合せに設計者の同席が必要
⇒ 設計者が同席して仕様の詰めを行っている
⇒ 引合い時から設計者の同席が必要

最終損益が 不明

設計積算原価把握ができず、気が付けば赤字
⇒ 納期回答や見積回答の精度が低い
⇒ 仕様変更や特急品対応で生産現場が混乱している

■ 解決ポイント

< 設計作業の負荷軽減 >

- 設計不通過により設計人員の増員化が図れる
- 特殊仕様設計支援機能で選択ミスが無く、素早い作業が可能

< 営業業務の効率化 >

- モジュールコンフィグレーター機能を使って設計者不在で見積が可能
- 引合い段階での提案型営業で受注確度の向上が可能

< 現場作業の効率化 >

- 仕様変更による影響範囲を早期に把握し、ロスの削減が可能
- 製番部品表の差分管理で手配ミスの防止が可能

導入事例

設計業務の標準化／効率化を切り口とした業務改革により、品質・納期・価格競争力の大幅な強化

導入効果

✓ 設計業務改革

- ・ 図面構成、製品仕様の標準化により受注カバー率が向上（倍増）⇒ 提案型の営業スタイルを確立
- ・ 設計のモジュール化により図面流用率が向上し、設計人員を増人化（30%）⇒ 新規製品の設計に配置し提案型営業が可能になった

✓ 部門間の連携強化

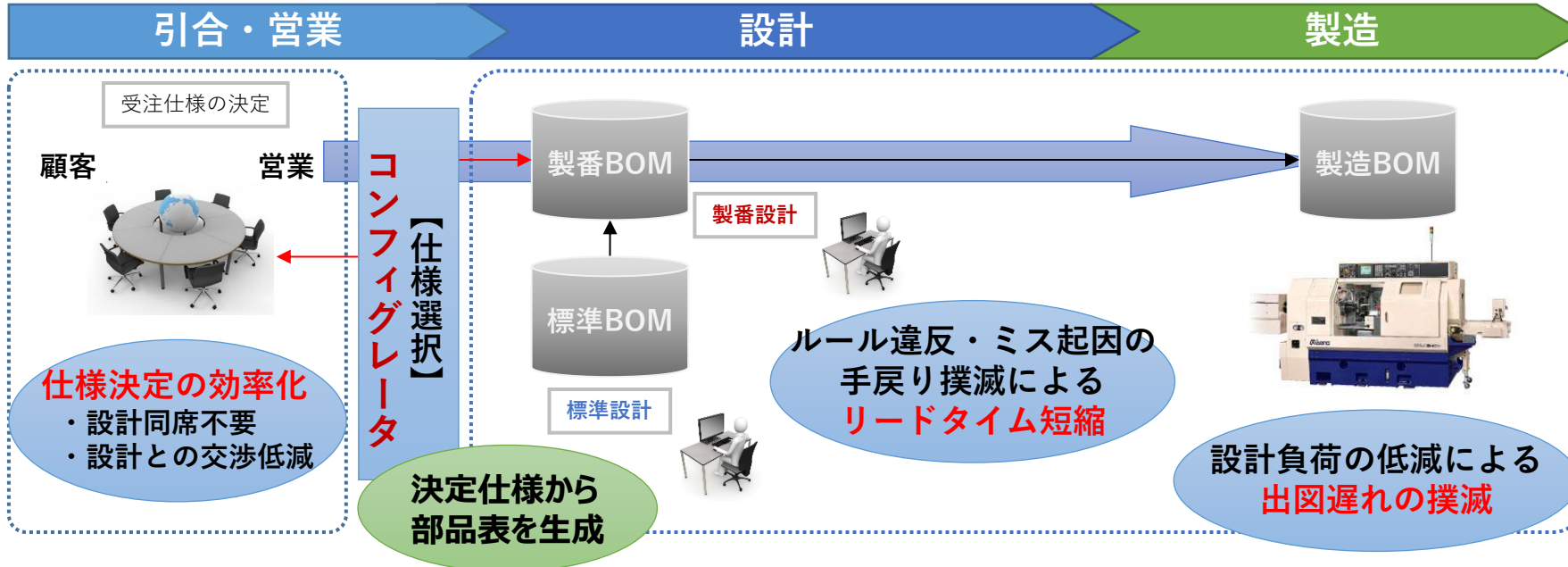
- ・ 設計部門と営業部門間の「問合せ」が大幅に削減できた（50%以下）⇒ 営業～設計への手戻り減少により営業事務工数削減（1.2名/月）
- ・ 生産部門と営業部門間の情報伝達がスムーズになり納期短縮できた（25%削減）⇒ 見積・受注仕様情報から製作仕様書・製造命令書を自動作成

技術情報管理システム CLIPV-PLMのご紹介

個別受注型製造業において、多様化・多品種化する製品バリエーションに対して、「仕様選定～見積～受注～設計不通過出図～生産手配」を迅速に行うための業務支援ツールです。

CLIP V-PLMの特徴

- 製品の図面構成をモジュール・バリエーションとして管理し、図面流用の正確・迅速・効率化を実現
- 顧客要求仕様を漏れや矛盾なく選定する仕様選択機能
- 上記と連動した見積書・仕様確認書の自動作成
- 仕様選択により必要モジュールが自動抽出され、顧客仕様に適した図面構成・製番部品表を自動作成

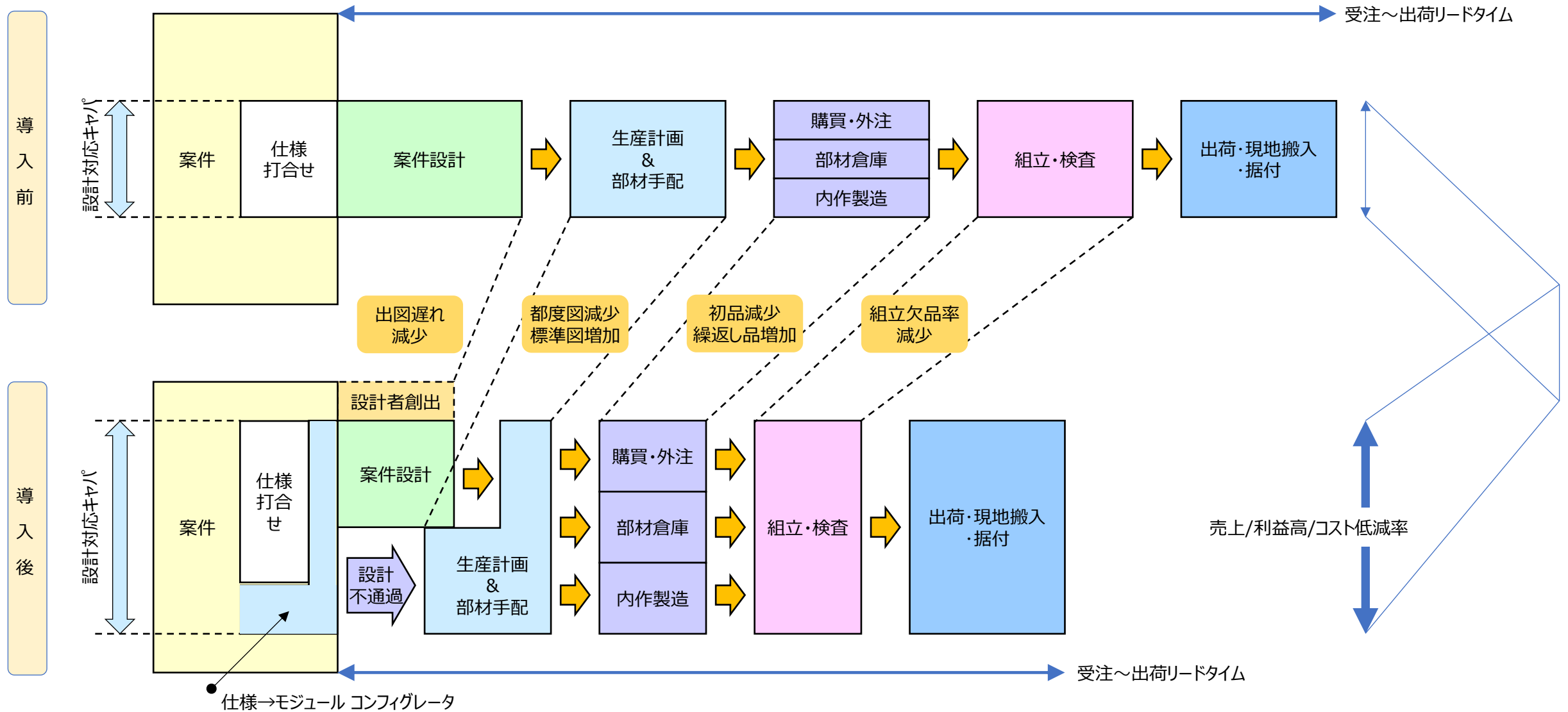


CLIP V-PLMの機能一覧

- 切片連動更新型の使用展開機能
- モジュール組合せ型
コンフィグレータ機能 (CPQ機能)
- 設計不通過出図機能
- 設計積算見積機能
- 特殊仕様設計支援機能
- 図面出図日程管理機能
- 製番部品表管理機能 (差分管理含む)
- 標準部品表管理機能
- 設計変更管理機能
- モデル製番管理機能
- 流用元過去製番検索機能 (近日公開)
- △ 生産準備機能
- △ 設計図書管理機能
- △ 設計業務改革コンサルティング

○ 標準機能 △オプション

モジュール化設計がもたらすこと



本資料についてのお問い合わせは…

株式会社 経営システム研究所
営業本部

〒 533-0033
大阪市 東淀川区 東中島 1-19-4 ルーシッドスクエア新大阪 12F

Tel : 06-6320-1858
Fax : 06-6320-1859
mail : info@ksk-consulting.com
HomePage : <http://www.ksk-consulting.com>

